

研究タイトル：

地形学的手法を用いた環境変遷史の解明



氏名： 木村 和雄 / KIMURA, Kazuo E-mail: kimura@okinawa-ct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(理学)

所属学会・協会： 東北地理学会、日本地質学会、ネパール地質学会ほか

キーワード： 地理学、地形学、第四紀地質学

技術相談
提供可能技術： 地形図、空中写真、google earth などを用いた地形判読技術、地表踏査法

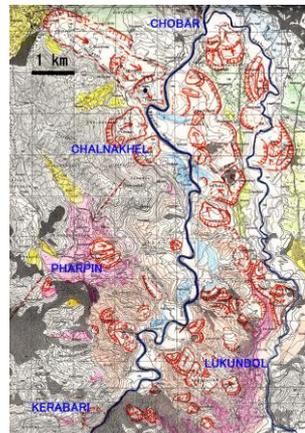
研究内容：

臨海低地における微地形変化とイベント堆積物



左の写真はヤンバルの小さな川、大浦川沿岸に打ち上げられたサンゴの遺骸です。浅い海底に棲む造礁サンゴの塊が内陸まで運ばれる要因として、最も有力な現象は津波です。このような堆積物の性質、分布や年代などを調べることで、地形変化(人間にとっては災害)の解明を目指しています。このサンゴは西暦 1950 年以降に死んでいて、地下には埋没していなかったことから、1960 年チリ地震津波で遡上したと考えられます。

巨大地すべりはなぜ起きるのか？



上の写真はネパール、カトマンドゥ盆地南縁の地すべり密集地、右はその付近の判読例です。滑落崖の長さが1km に達するような大きな地すべりは、数が少なく、発生要因もよくわかっていません。そこで巨大地すべりの世界的な分布や形成事例を検証しています。これ、沖縄の地形・骨格を知る上でも重要な筈です。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

特に無し